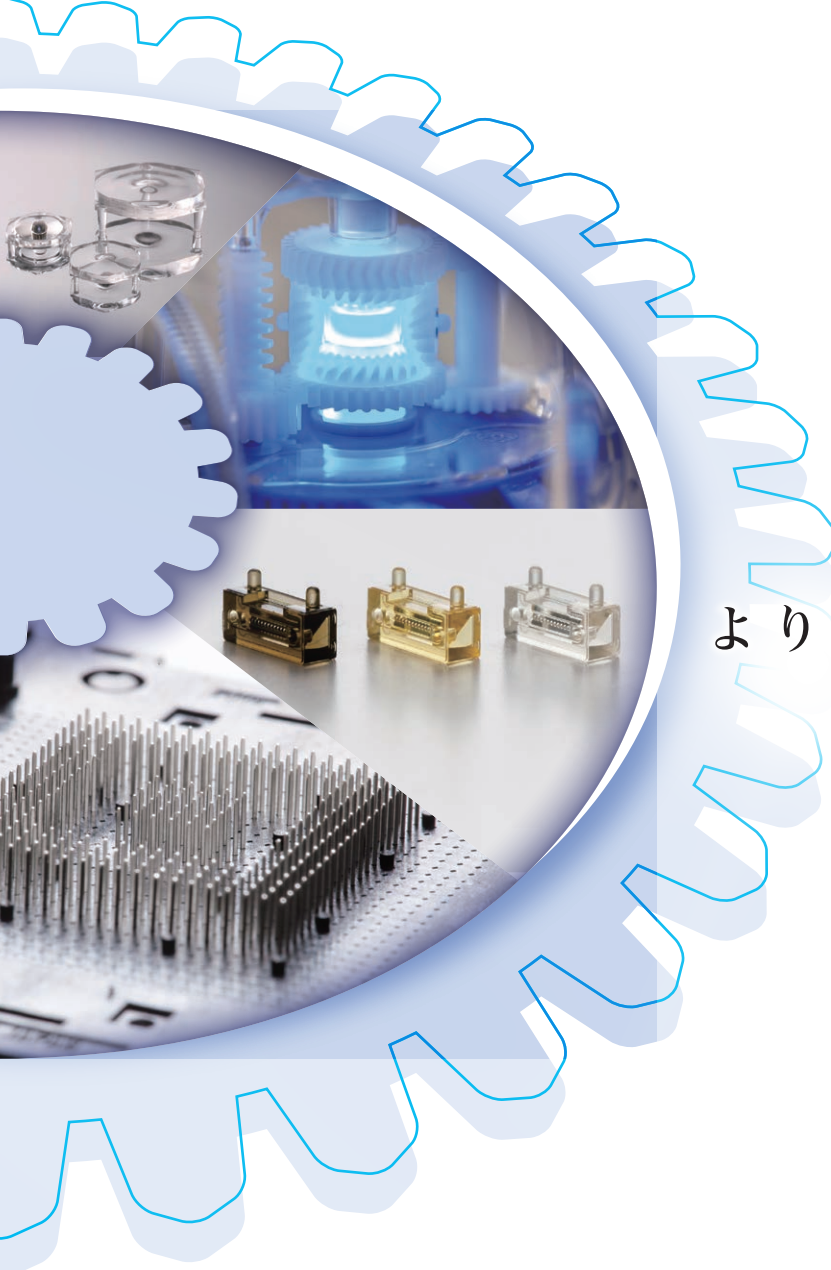


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

2021年3月期(第60期)中間報告書  
2020年4月1日から2020年9月30日まで

**enplas**

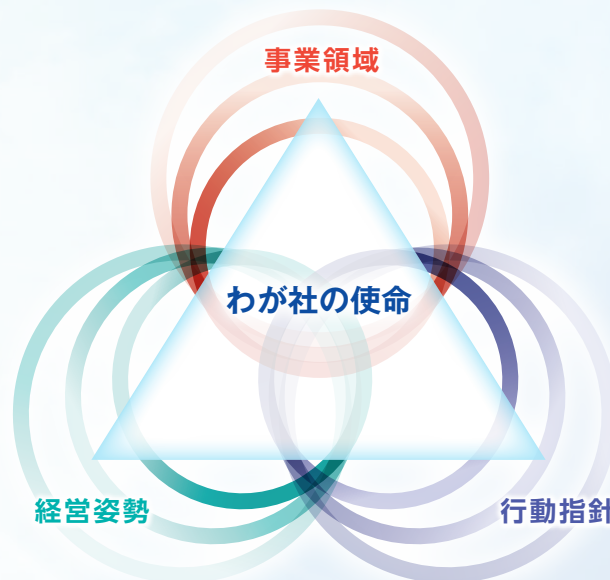


# enplas

株式会社エンプラス

## Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. エンプラスのESG
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



### わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

### 事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

### 経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

### 行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



## 株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

世界各地で感染が拡大している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により亡くなられた方々に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、この新しい感染症から多くの人々の命を救うため、昼夜を問わず現場に立ち向かう医療従事者及び関係者の皆様に心から敬意を表します。

### Q | 上期の事業環境と経営実績についてお話しください。

上期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応が経済活動の維持と感染拡大抑制を両立する局面に移行したことから、景気は回復基調にありますが、依然として新型コロナウイルス感染症の感染再拡大が懸念される状況にあります。

このような状況の中、エンプラ事業では、自動車用部品は新型コロナウイルス感染症の影響による生産活動の落ち込みから回復傾向にある一方、プリンター用部品は世界的な需要減少により低調に推移しました。

半導体機器事業では、各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、新型コロナウイルス感染症の影響や世界的な半導体需要の一服、米中貿易摩擦の激化の影響を受け、モバイル向けや車載向けを中心に販売は低迷しました。

オプト事業では、光通信関連の光学デバイスは、5Gなどの次世代高速通信用途の引合いが引き続き増加傾向にあり、ハイエンドやミドルエンド製品の販売が好調に推移しました。LED用拡散レンズは、市場の競争の高まりを受けて受注が減少しました。

### Q | 下期の取り組みについてお話しください。

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大と米中貿易戦争を背景に、世界規模の経済的難局が予想される状況となっており、当社を取り巻く環境は予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、新型コロナ

# 株主の皆様へ

ウイルス感染症の感染拡大やグローバル競争の激化によるマーケット及びサプライチェーンの変化に迅速に対応してまいります。また、更なる成長を目指すため、新規事業の創出や既存事業の強化に注力することで企業価値の向上及び株主価値の最大化を目指してまいります。

エンブラ事業では、自動車用部品とプリンター用部品につきましては、ソリューションビジネスの推進、そして生産性向上による収益性の改善を図ってまいります。また、当社が早期事業化に向けて注力しておりますバイオ関連事業では、遺伝子検査装置に使われるチップ（デバイス）を製造しております。当社製品の用途は、新型コロナウイルスのPCR検査ではないものの、コロナ禍における人々の健康意識の高まりにより、遺伝子検査市場についてもより一層の成長が見込まれると考えております。当社は引き続き、当社技術が健康社会の実現に貢献できるよう、バイオ関連事業の成長に向けて注力してまいります。

半導体機器事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と米中貿易戦争の激化による不透明感が拡大しておりますが、中長期的にはサーバーや5G関連市場の成長に伴う事業機会が増加すると見込んでおります。引き続き、新ソリューション開発の推進と生産体制の強化を進めてまいります。

オプト事業は、5Gなどの次世代高速通信分野や新規市場における新製品開発に注力してまいります。

## Q | 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針として、今期以降の業績予想を

勘案して、配当の決定を行っております。

また、当社では自己資本利益率（ROE）及び1株当たり当期純利益（EPS）を事業活動の成果を示す重要な経営指標と位置づけており、その維持・向上を図るため自己株式の取得も継続的に検討してまいります。内部留保しております資金は、経営基本方針に則り、今後の事業展開を踏まえ、中長期的展望に立って生産設備投資、研究開発投資、情報化投資や新事業創出のためのM&A資金などに積極的に振り向けるとともに、将来の収益力の向上を通じて株主の皆様へ還元できるものと考えております。なお、中間配当につきましては、1株当たり15円とさせていただきます。また、当期の期末配当金については1株当たり15円、通期で1株当たり30円を予定しております。

## Q. 株主の皆様に一言お願いします。

私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術のもとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。

世界情勢は先行き不透明な状況が続く中、当社の技術を活用し、引き続き社会に貢献できる製品を開発してまいります。

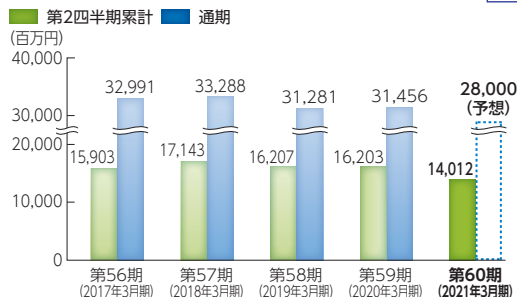
また近年、中長期的な視点で企業価値を評価する際に、財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスに関連する非財務情報を重視する傾向が広まっています。ESGに関する当社の取り組みを7~8ページに掲載しておりますので、ご覧頂けると幸いです。

今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

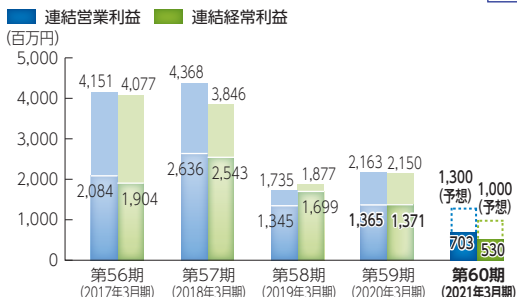


# 連結業績の推移

## ■連結売上高 1



## ■連結営業利益／連結経常利益 2



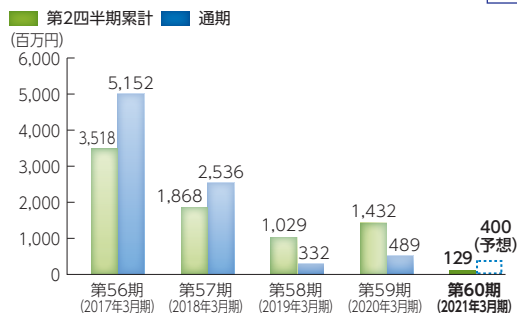
### ポイント 1

当第2四半期累計における連結売上高は14,012百万円(前年同期比13.5%減)となりました。

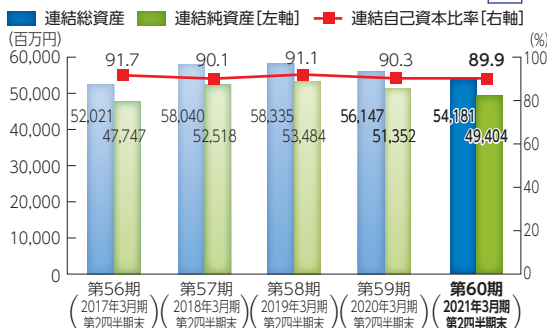
### ポイント 2

連結営業利益は703百万円(前年同期比48.5%減)、連結経常利益は530百万円(前年同期比61.3%減)となりました。

## ■親会社株主に帰属する連結四半期(当期)純利益 3



## ■連結総資産／連結純資産／連結自己資本比率 4



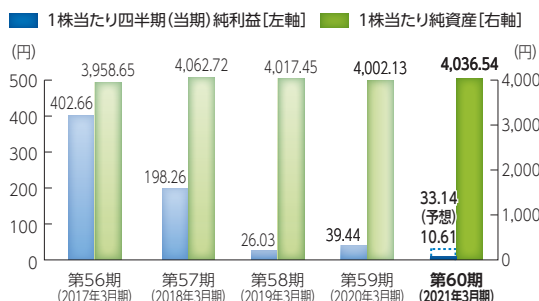
### ポイント 3

親会社株主に帰属する連結四半期純利益は129百万円(前年同期比90.9%減)となりました。

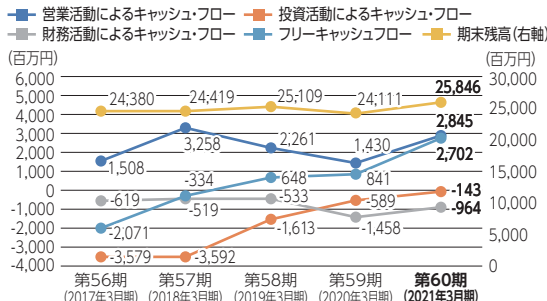
### ポイント 4

連結純資産は49,404百万円(前連結会計年度末比64.5百万円減)、自己資本比率は89.9%(前連結会計年度末比0.2ポイント増加)となりました。

## ■1株当たり四半期(当期)純利益／1株当たり純資産



## ■連結キャッシュ・フロー(第2四半期累計)



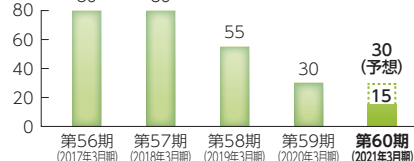
※業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

## 株主還元について

**1株当たり  
配当金30円**

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針として、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり30円を予定しております。

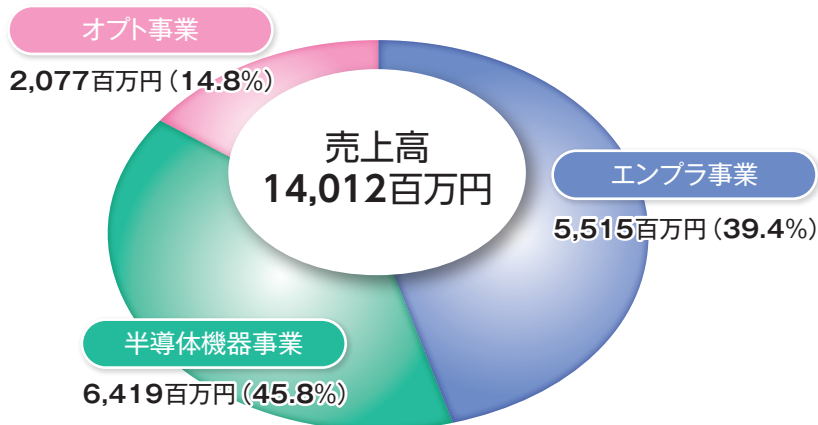
## ■配当金 (円)



# 事業別概況

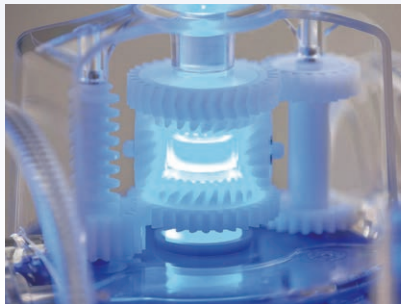
## 事業セグメント別売上高構成比 2021年3月期第2四半期累計 (2020年4月1日から2020年9月30日)

当社は創業以来、基幹事業としてエンプラ事業の高精度化・高機能化を進め、さらに、時代の変遷とともに、メカトロニクス領域からデジタル領域へと要素技術開発を展開し、半導体機器事業・オプト事業と事業領域の拡大を図ってまいりました。今後も世界のあらゆる産業分野に活動の場を広げていきたいと考えております。

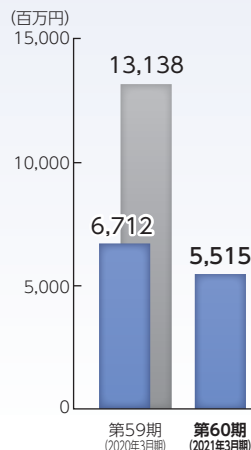


### エンプラ事業

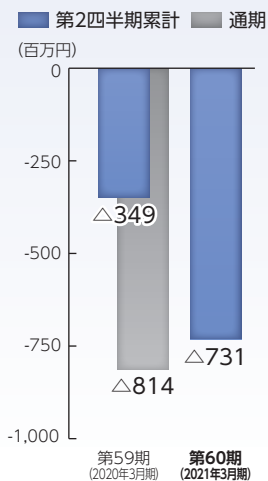
自動車用部品は新型コロナウイルス感染症の影響による生産活動の落ち込みから回復傾向にある一方、プリンター用部品は世界的な需要減少により低調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,515百万円（前年同期比17.8%減）、セグメント営業損失は731百万円（前年同期は349百万円のセグメント営業損失）となりました。



### ■ 売上高



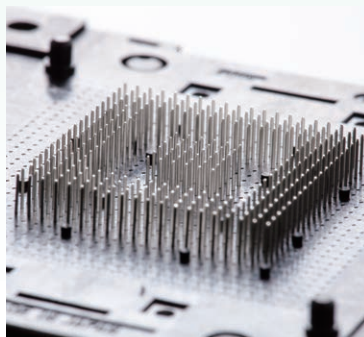
### ■ 営業利益



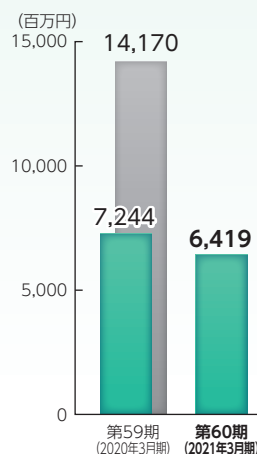
## 半導体機器事業

各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、新型コロナウイルス感染症の影響や世界的な半導体需要の一服、米中貿易摩擦の激化の影響を受け、モバイル向けや車載向けを中心に販売は低迷しました。

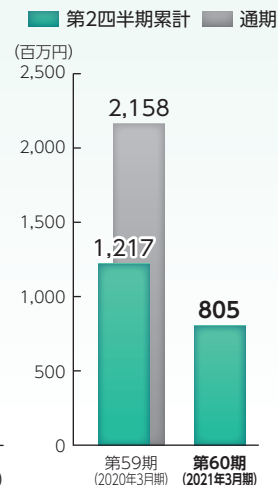
この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,419百万円(前年同期比11.4%減)、セグメント営業利益は805百万円(前年同期比33.8%減)となりました。



### ■ 売上高



### ■ 営業利益

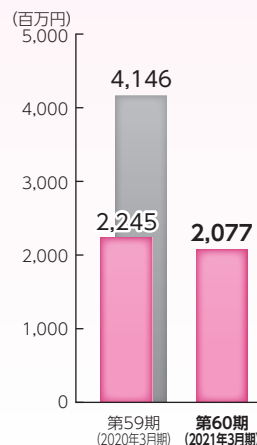


## オプト事業

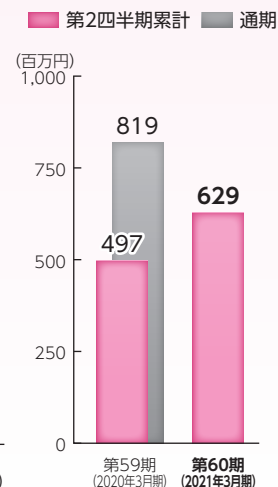
光通信関連の光学デバイスは、5Gなどの次世代高速通信用途の引合いが引き続き増加傾向にあり、ハイエンドやミドルエンド製品の販売が好調に推移しました。LED用拡散レンズは、市場の競争の高まりを受けて受注が減少しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,077百万円(前年同期比7.5%減)、セグメント営業利益は629百万円(前年同期比26.7%増)となりました。



### ■ 売上高



### ■ 営業利益

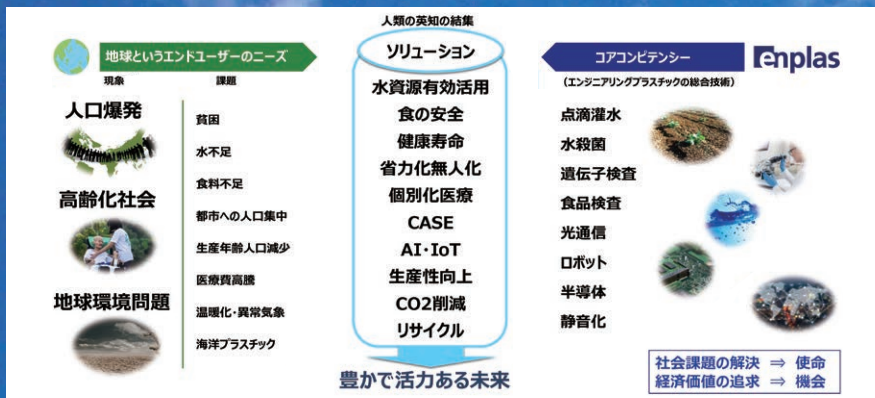


# エンプラスのESG

当社は創業以来、エンジニアリングプラスチックによる超精密加工に特化し、創造的価値を世界市場に提供することで社会に貢献してまいりました。当社グループの経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社グループのコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。

近年、企業存続に向けたESGやSDGsへの取り組みや情報開示に対する社会の要請が高まっており、当社グループでは、社長のリーダーシップのもと、当社グループのコアコンピテンシーと社会課題を紐付けた「エンプラスの目指す姿」を策定するとともに、従業員に向けたESG情報の発信を行っています。

## 〈エンプラスの目指す姿〉



## Environment (環境)

当社グループは、下記環境方針を定め、環境マネジメントシステムを7拠点(下記適用範囲参照)で構築し、「環境マニュアル」に基づいた活動を推進しています。

### 環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー(電力使用量等削減/CO<sub>2</sub>削減)を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

### 〈適用範囲〉

組織の単位・物理的境界	区分	適用範囲
エ ン プ ラ ス 株 式 会 社	グローバル本社	自己宣言
	本社	自己宣言
	鹿沼工場	審査登録
国 内 グ ル ー プ 株 式 会 社	株式会社エンプラス 研究所	自己宣言
	株式会社エンプラス ディスプレイデバイス	自己宣言
	株式会社エンプラス 半導体機器	自己宣言
	QMS株式会社	自己宣言



## Social (社会)

当社グループは、下記品質方針を定め、ISO 9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、「品質マニュアル」に則ったオペレーションを行っています。

### エンプラス品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術による確かな品質で、世界市場のニーズに応え、社会の発展に貢献します。
2. 法令、規制、お客様の要求事項を遵守し、お客様から信頼を得られるよう行動します。
3. 品質マネジメントシステムの継続的な改善により、あらゆる変化に対応できる品質基盤を堅持します。

2020年6月10日改定

### 研究開発

当社グループはSDGsが掲げているゴールや、AIや自動運転などが可能にする世界からバックキャストしながら、様々な研究開発に取り組んでいます。具体的には、エンジニアリングプラスチックの環境負荷低減に向けて、カーボンニュートラルかつ生分解性のあるプラスチック材料の利用に向けた形成性改善にも取り組んでいます。また、UVC-LED(短波長紫外線)を用いた水殺菌技術を応用し、マスク等医療防護用品向けにも使用可能なウイルス殺菌装置を開発しました。

## Governance (ガバナンス)

### コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社の経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社のコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。その企業理念に基づき、持続的な企業価値の向上を実現する為に、「エンプラス コーポレート・ガバナンス ポリシー」を制定し、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組んでおります。

### リスクマネジメント

当社グループは、地震・洪水・台風などの自然災害を想定し、管理本部長を本部長とする災害対策本部の設置、ハザードマップの作成を通じた拠点別のリスク特定などを行っています。

### BCP(事業継続計画)・BCM(事業継続マネジメント)

当社グループは、エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術の進歩をあらゆる産業分野で顧客にとっての価値に変えることで発展してきました。今後も持続的に発展することを目的に、技術継承とともにデータのデジタル化による蓄積・運用を図っています。

# 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(2020年9月30日現在)

## 会社概要

商号 株式会社エンプラス  
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
設立 1962年2月21日  
資本金 80億8,045万円

## 取締役及び執行役員

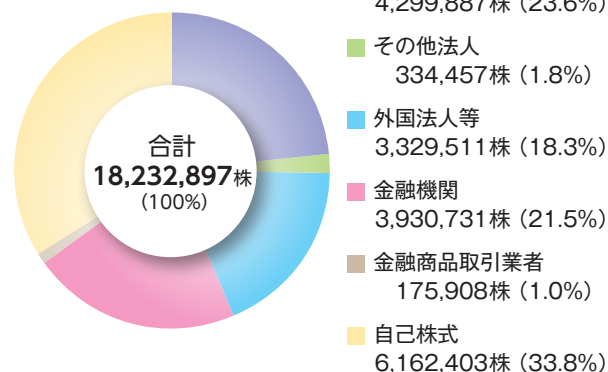
取締役兼社長経営執行役員	横田 大輔
取締役兼経営執行役員	藤田 慈也
取締役兼経営執行役員	堀川 裕司
取締役	風巻 成典
取締役(監査等委員)	井植 敏雅
取締役(監査等委員)	久田 眞佐男
取締役(監査等委員)	長谷川 一郎
常務経営執行役員	菊地 豊
経営執行役員	沓沢 茂雄
経営執行役員	杉淵 幹太
執行役員	酒井 啓至
執行役員	宮坂 章司
執行役員	小倉 高志
執行役員	蒨 澤 泰

(2020年9月30日現在)

## 株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株  
発行済株式総数 18,232,897株  
株主数 4,030名

### 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度  
定時株主総会  
株主名簿管理人

郵便物送付先、連絡先

基準日  
公告方法

上場金融商品取引所

4月1日から翌年の3月31日まで  
毎年6月

みずほ信託銀行株式会社  
東京都中央区八重洲一丁目2番1号

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問い合わせ)

定時株主総会の議決権 3月31日

電子公告 (<https://www.enplas.co.jp/>)

ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。

貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。

東京証券取引所 市場第一部

☎ 0120-288-324

# グローバルネットワーク

## 国内ネットワーク

### グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

### 本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都  
・グローバル本社



鹿沼工場

埼玉県川口市

- ・本社
- ・株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
- ・株式会社エンプラス研究所
- ・QMS株式会社
- ・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所

四日市営業所

西日本営業所

九州営業所



本社  
株式会社エンプラスディスプレイ デバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



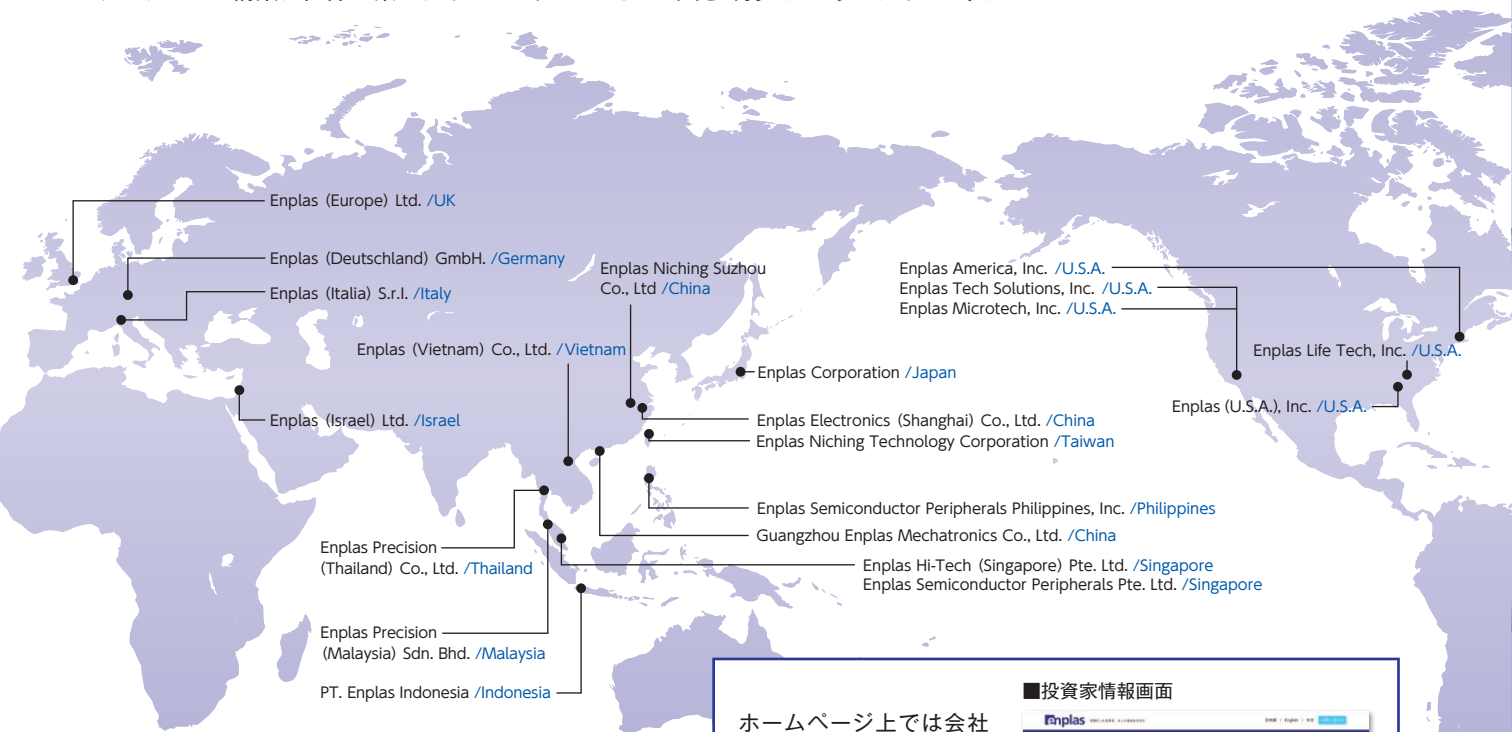
株式会社エンプラス研究所

# グローバルネットワーク

## ■ 海外ネットワーク

### 技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



## 株式会社 エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688  
<https://www.enplas.co.jp/>



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR

検索

### ■ 投資家情報画面

